

国際医療福祉大学 成田病院 動脈硬化専門医教育研修カリキュラム

認定番号：149

認定日：2021年4月1日

1. 当院の特徴

2017年4月1日に国際医療福祉大学医学部が千葉県成田市公津の杜に開学した。一学年140名中、20名が海外からの留学生であり、「高度な総合的診療能力と国際性を兼ね備えた医師の育成」をスローガンとしている。そして2020年3月16日、国際医療福祉大学成田病院が開院した。642床（一般病床600床、精神病床40床、感染症2床）、およそ40診療科を有し、高度で質の高い医療を地域の皆様に提供するため、脊椎脊髄センター、消化器病センター、脳卒中センター、血液浄化（透析）センターをはじめ、国際臨床感染症センター、国際遠隔診断センターなどの各センターも併設している。国際医療福祉大学は1995年に栃木県大田原市に開学した日本初の医療福祉の総合大学であり、千葉県内には国際医療福祉大学市川病院、栃木県の国際医療福祉大学病院、同塩谷病院、東京都の同三田病院、静岡県と同熱海病院に加え、当院を含めた6の附属病院が連携して日々、診療・教育・研究を推進している。

2. 動脈硬化専門医教育研修の目標

本カリキュラムを通じて、内科全般の知識に加えて、糖尿病や脂質異常症の専門性を有して診療や教育、患者への生活習慣の指導ができる医師の育成を目指す。本プログラムの最終目標は日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医制度規則第1章第1条にある“脳梗塞、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患の包括的リスク評価を行うとともに、リスク因子としての脂質異常症、糖代謝異常、高血圧、慢性腎臓病などの病態を十分に理解し、動脈硬化性疾患の発症予防・治療のための診療を担当し、一定の能力を有する医師を専門医として認定する制度である。この制度は多領域に渡る動脈硬化学の知識を包括的に共有することで、多くの患者が安心して医療をうけることができる環境をつくり、国民の福祉に貢献することを目的とする。”である。

3. 各年次における目標

当院における教育研修プログラムは国際医療福祉大学病院、同三田病院、同市川病院、同熱海病院とも連携しておこなう。当院は各診療科の垣根が低く、40以上の診療科を有し、多診療科との連携やコメディカルとの多職種連携を十分に学ぶことが可能である。

本教育研修プログラムを開始するにあたり、日本内科学会、日本動脈硬化学会に入

会し、以下のごとく年次毎に目標を定め研修プログラムを遂行する。

【研修 1 年次】病棟にて入院患者を上級医・研修指導医とともに受け持つ。1年目の目標は糖尿病・脂質異常症の診療力、知識をしっかりと身につけることにある。

1. 病歴、家族歴の聴取や患者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。
2. 診察手技を研修指導医に加えて、循環器内科、呼吸器内科、神経内科の指導医から学ぶ。
3. 検査計画や合併症についての種々の検査やその評価について正しい知識を身につける。頸動脈エコー、PWV、ABIなどの検査は自ら体験し実践する。
4. 動脈硬化症の診断、治療に必要な知識と技術を習得する。基本的な知識に関しては、1年をかけて「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017」を通読する。
5. カンファレンスにおいて自身で担当した症例以外の症例についても知識を深める。
5. 多職種連携に関して学ぶ。
6. 1年次の後半からは研修指導医の外来につき、外来診察を学ぶ。

【研修 2 年次】2年次からは外来研修も開始する。2年次は上級医・研修指導医に適宜相談しながらも、必要な検査を立案・実践し一人で診療可能なレベルへの達成を目指す。

1. 病棟では1年次研修医の直接指導を行い、自ら1年次で得た知識、手技を再確認するとともに、教える立場を経験する。
2. 病棟で担当した入院患者のフォローアップ外来や新患者を適宜、上級医・研修指導医に指導を受けつつ担当する。
3. 上級医・研修指導医とともに他科からの依頼患者の血糖・脂質管理を行う。
4. 透析室にて透析の基本的知識を学ぶ。
5. 血糖測定、インスリン注射手技、食事療法、運動療法の患者指導に関して看護師(糖尿病療養指導士)、管理栄養士、理学療法士と協力して行い個別指導を学ぶ。
6. 院内の整形外科医、血管外科医との連携で糖尿病足壊疽、抹消動脈疾患などに関して学ぶ。
7. 各種ガイドラインの根拠となっている臨床研究文献の背景を理解し、読解できるようナリテラシーの習得に向けて、抄読会を開始する。
7. 自ら経験した動脈硬化性疾患症例に関して学会報告を行う。

【研修 3 年次】3年次は主治医として外来・入院患者を受け持ちながら各種検査を行うとともに、初期臨床研修医の上級医として指導も行なう。

1. 経験症例を更にふやし、知識を深める。
2. 1、2年次研修医の直接指導し、指導方法を学ぶ。
3. コメディカル教育の中心となって勉強会を開催し、また様々な学会、勉強会に積極的に参加し研鑽する。
4. 動脈硬化専門医研修カリキュラムを適切に達成出来るよう、研修指導医と相談し、

不足する研修内容は、連携施設、学会、各種学習会などを通じて習得出来るよう研鑽に励む。

5. 臨床現場における問題点、改善すべき点を科学的に捉え、学会、論文等に発表する。